

『幼獅少年』初期の編集

—— 民國70年度誌面の分析 ——

高橋明郎

1 序 論

『幼獅少年』は青年反共救国団（以下救国団）系の少年雑誌である。国民党系列の少年出版物としてどういう変遷をたどったかを考えるため、筆者は既に「『幼獅少年』創刊期の記事と作家たち」⁽¹⁾をまとめた。当該論文では、創刊号から5号までを題材に、編集の特徴を

- 1) 大陸の人々の生活経験を、台湾で育つ青少年に伝達する
- 2) 中華民国政府の意義を大陸の苦難の状況との対比で伝えること
- 3) 中国文化への誇りを持たせ、その認識を深められるようにする

という3点に整理した。

本論文では、創刊5年後の民國70年（1981）の記事を題材に、創刊5年でのような特色がどのように変化したかを考えることとする。

この時期の編集部は、発行人が胡軌、社長が曾濟羣、編集長が瘧弦、主編が孫小英という体制で、大きな変更はない。各作品や記事を、おおまかな分野別に整理したのが次の表である。

(1) 「『幼獅少年』創刊期の記事と作家たち」(『香川大学経済論叢』第85巻4号2013.3)

表 1

	第51号 (70. 1)	第52号 (70. 2)	第53号 (70. 3)
1 勵志	迷你格言－生活拾穗 桂文亞輯		
2 修身	心理漫談－有趣的顏色心理 王秀雄	寓言－小鳥翩翩 阮秀萍	
3 a 益智一般	少年書房－小太陽 展甦	戶外安全－山林中的小殺手 馬賽	戶外安全－毒蛇咬到怎麼辦 馬賽 健康與衛生－智力就是智慧嗎？ 管家仁
3 b 益智時事	時事分析－放眼看天下 楊思謙	時事分析－放眼看天下 楊思謙	時事分析－放眼看天下 楊思謙
3 c 益智科学	占風卜雨－生命之源馮鵬年 物理常識－五彩繽紛 李中原 綠色地平線－熱帶海岸林 徐國士；心岱 植物世界－逗趣的小丑花 鄭元春 小小實驗室－怎麼知道空氣有壓力 鄧聰；康蘭	動物故事－小雞誕生交響曲 草子葉 宇宙奧秘－太陽和季節 盧世斌 綠色地平線－臺灣的命脈 徐國士；心岱 占風卜雨－做人不要攀高親 馮鵬年 小小實驗室－空瓶子真是空的嗎 鄧聰；康蘭 植物世界－張著嘴巴的金魚草 鄭元春	科學常識－人和沙漠 江麗英 動物故事－會笑的土狼 杜白 占風卜雨－風從那裏來 馮鵬年 綠色地平線－留得青山在 徐國士；心岱 生物知識－水中蜘蛛 于青 植物世界－矮牽牛不是牽牛 鄭元春 小小實驗室－噴泉與虹吸 鄧聰；康蘭 趣味圖片－三種小海怪 草子葉
3 d 益智人文	中國人的生活－1－朱惠良 民俗民藝－19－劉三家 採風擷俗老莊 中國神話－伏羲再造人類 劉肖洵 圖畫故事－食虹妖精 翔翔	中國人的生活－2－朱惠良 民俗民藝－20－劉三家 採風擷俗老莊 中國神話－救母尋妻記 劉肖洵 吾愛吾鄉－我家住十六 雲林國中三年十四班 山地故事－霧頭山和大武山 蘇樺	中國人的生活－3－朱惠良 民俗民藝－21－劉三家 採風擷俗老莊 古典故事－三更燈火五更雞 王孝廉 山地故事－把天推高的巨人 蘇樺
3 e 益智芸術		剪紙藝術－剪隻雞過新年 婁子臣；陳嫻嫻	
4 a 娛樂漫畫	漫畫－西遊記 林文義	漫畫－西遊記 林文義	漫畫－西遊記 林文義
4 b 娛樂測驗			
4 c 娛樂ユーモア	小幽默－哈哈鏡 王文琴	小幽默－哈哈鏡 沈志峯	小幽默－哈哈鏡 宋璧華
4 d 娛樂奇術			
4 e 娛樂音樂		樂器與音樂－法國號 朱麗	談音說樂－民歌民歌：並訪「龍的傳人」作者侯德健 沈錦堂；孫晴峯
4 f 娛樂愛好	繞口令－八里坡裏八節樹 朱介凡輯 少年遊－離島遨遊 黃秀琴；胡金印 少年書房－小太陽 展甦	動動手－自己種馬鈴薯 廖玉琬 繞口令－駱郭畢伯四老伯 朱介凡輯	體育天地－越野賽跑 查連溪 繞口令－禿丫頭 朱介凡輯
5 生活	生活常識－雞年談雞 無花果	生活常識－臺灣的寶石世界 江玉珠	
6 a 文学	我們來寫詩－什麼是詩 蕭蕭 少年小說－顏色不見了 王裕仁 新詩創作－小蝸牛、小星星 周進華 童話－小豬與蜘蛛 孫晴峯	我們來寫詩－什麼是詩的節奏 蕭蕭 新詩創作－小河 陳煌 童話－小豬與蜘蛛 孫晴峯 趣味故事－我家有個小女巫 陳佩周 小故事－培植人才 悅玲	我們來寫詩－詩的語言和散文有什麼不同 蕭蕭 少年書房－星星的祕密 陳美儒 新詩創作－我林書譯 童話－小豬與蜘蛛 孫晴峯 鄉下的童年－故鄉 趣味故事－我家有個小女巫 陳佩周 素描 林雙不
6 b ルポ・ドキュメント			專題報導－健康與活力的泉源 專題小組
6 c 美術	雞蘇信託；吳隆榮解說 工藝勞作－自己做 洋娃娃 鄭琳枝	車站廖秀莉；吳隆榮解說	運動場上 黃雅淑；吳隆榮解說
7 讀者	學生園地－青青草原 韓富美 孫姐姐信箱 孫姐姐	學生園地－青青草原 李則君 孫姐姐信箱 孫姐姐	學生園地－青青草原 李英才 孫姐姐信箱 孫姐姐

第54号 (70.4)	第55号 (70.5)	第56号 (70.6)
		迷你格言-生活拾穗 桂文亞輯
少年書房-微笑的天使 林雙不 經濟漫談-為什麼石油 漲價, 冰淇淋也跟著漲 詹宏志 戶外安全-溪流玩水樂 馬賽	少年書房-艾莎的一生 夏祖麗 邏輯漫談-他錯了, 因此我對! 林正弘 健康與衛生-怎樣看醫生 管家仁 戶外安全-五月梅雨擾人類 馬賽水手的昴星-暗礁 呂健忠	戶外安全-郊遊登山樂 馬賽 法律常識-與污染防治有關的法令 邱炎波 健康與衛生-咖啡茶葉能夠提神嗎 管家仁
時事分析-放眼看天下 楊思謙	時事分析-放眼看天下 楊思謙	時事分析-放眼看天下 楊思謙
宇宙奧秘-太陽的表面 盧世斌 科學常識-令人頭痛的能源問題 黃巧玲 科學新知-核能如何發電 徐正一 生物介紹-海裏的花 呂金翰 植物世界-奇特動人的妙花蕊 鄭元春 小小實驗室-風化與潮解 鄧聰; 康蘭	占風卜雨-吸果汁的奧秘 馮鵬年 生物介紹-像植物的動物: 海百合 陳忠庸 航空科學-瑞典空軍三王牌 畢雲皓 小小實驗室-眨眼的星星 鄧聰; 康蘭 綠色地平線-森林副產品 徐國士; 心岱 植物世界-原始的香香花 鄭元春	生物常識-小河不要死 無花果 科學常識-金山行 劉源俊 化學常識-注意環境裏的鉛 周成功 植物世界-不易凋謝的花 鄭元春 航空科學-瑞典空軍三王牌 畢雲皓
圖畫故事-李衛公靖 廖玉蕙 中國人的生活 - 4 - 朱惠良 民俗民藝 - 22 - 劉三蒙 採風擷俗 老莊	中國人的生活 - 5 - 朱惠良 民俗民藝 - 23 - 劉三蒙 採風擷俗 老莊 故鄉故事-涇縣有三寶 羊令野 吾愛吾鄉-我家住新城 花蓮秀林國中三年忠班	吾愛吾鄉-我家住臺東 黃贊烈指導 中國人的生活 - 6 - 朱惠良 採風擷俗 老莊
漫畫-西遊記 林文義	漫畫-西遊記 林文義	漫畫-西遊記 林文義
小幽默-哈哈鏡 林雪玲	小幽默-哈哈鏡 曾黎珠	小幽默-哈哈鏡 施雅莉
談音說樂-什麼叫民歌: 並訪蔡琴 沈錦堂; 孫晴峯	談音說樂-從音樂談起: 並訪邵肇玫 沈錦堂; 孫晴峰	談音說樂-二談簡譜: 並訪黃大城 沈錦堂; 孫晴峯
體育天地-白鯨精神 查蓮溪	繞口令-四十四棵柿子樹 朱介凡譯	繞口令-一根竹子八十八個節 朱介凡輯
生活常識-豬糞的神話 無花果	生活常識-西螺的蔬菜 向壹	生活常識-談水污染 會惠中
我們來寫詩-如何活用比喻 蕭蕭 散文-天倫歌 曾美蕙 新詩創作-火車的衣服等三首 洪志明; 林煥彰 童話-小豬與蜘蛛 孫晴峯 趣味故事-我家有個小女巫 陳佩周	我們來寫詩-如何形成意象 蕭蕭 新詩創作-媽媽的歌 劉正盛 童話創作-火雞密使 鄭清文 童話-小豬與蜘蛛 孫晴峰 鄉下的童年-友伴 林雙不 趣味故事-我家有個小女巫 陳佩周	新詩創作-癡 舒蘭譯 散文-心靈的污染 子敏 少年小說-愚人的天堂 徐進夫譯 童話-小豬與蜘蛛 孫晴峯 鄉下的童年-左膝大炮 林雙不 趣味故事-吃蚊子的月亮 桂吟歸
各行各業-美髮師專題小組 社會百態-木炭業重起爐灶 鄭琳枝		
農村林瑜琿; 吳隆榮解說	室內卓美翠; 吳隆榮解說	美的天地-少年眼中的世界 鄭明進 養蠶 洪信培; 吳隆榮解說
學生園地-青青草原 廖宏文 孫姐姐信箱 孫姐姐	母親節徵文佳作 簡基欣 學生園地-青青草原 葉金燕 孫姐姐信箱 孫姐姐	學生園地-青青草原 張素蓮 孫姐姐信箱 孫姐姐

	第57号 (70.7)	第58号 (70.8)	第59号 (70.9)
1 勵志		美的天地－奮鬥成功的動物插畫家鄭明進	美的天地－插畫家筆下的月亮 鄭明進
2 修身		我該這樣做－維護生活環境人人有責 邱炎凌	寓言－吐金虎 野火 我該這樣做－撿到錢，怎麼辦 周世傳 集郵趣談－波音七四七郵票 王華南
3 a 益智一般	少年書房－貝多芬傳 沈錦堂 戶外安全－大自然請客 馬賽 健康與衛生－你該怎麼辦？ 管家仁	少年書房－注解三字經 馮鵬年 戶外安全－知天可免災 馬賽 邏輯漫談－推理錯了，因此結論是假的？ 林正弘 趣味圖形－腳印的故事 瘦叔叔	戶外安全－山林溪谷覓佳肴 馬賽 邏輯漫談－舉個例子給你看 林正弘
3 b 益智時事	時事分析－放眼看天下 楊思謙	時事分析－放眼看天下 楊思謙	時事分析－放眼看天下 楊思謙
3 c 益智科學	占風卜雨－勒威耶的構想 馮鵬年 科學漫畫－表面張力林 遙遠 綠色地平線－紅樹林 徐國士 心岱 植物世界－揭開無花果的祕密 鄭元春 航空科學－萬人矚目的太空梭 畢雲皓	航空科學－八十年代西歐龍捲風 畢雲皓 宇宙奧秘－太陽的能 盧世斌 動物故事－昆蟲的靈魂之窗 楊平世 植物世界－開在樹幹上的花 鄭元春 綠色地平線－野杜鵑點點紅 徐國士；心岱	小小實驗室－對水知多少 鄧聰；康蘭 植物世界－樹上的草木 鄭元春 綠色地平線－林中的瑰寶 徐國士；心岱
3 d 益智人文	神話故事－紅桑果的來源 呂健忠 風土民俗－臺東的卑南巨石文化 黃贊烈 山地故事－烏鴉是怎麼變黑的 蘇樺 中國人的生活 - 7 - 朱惠良 採風擷俗 老莊	風土民俗－避暑妙品：花裡帽席 鄭琳枝 山地故事－盤樓的流浪人 蘇樺 中國人的生活 - 8 - 朱惠良 採風擷俗 老莊	山地故事－取回火種的鳥 蘇樺 中國人的生活 - 9 - 朱惠良 採風擷俗 老莊
3 e 益智藝術			國劇欣賞－拾玉鐲 陳亞南；張靜心
4 a 娛樂漫畫	漫畫－西遊記 林文義	漫畫－西遊記 林文義	漫畫－西遊記 林文義
4 b 娛樂測驗			
4 c 娛樂ユーモア	小幽默－哈哈鏡 蔡妮妮	小幽默－哈哈鏡 陳俊良	小幽默－哈哈鏡 陳美鈴
4 d 娛樂奇術			
4 e 娛樂音樂			談音說樂－談音樂的好壞；並訪李建復 沈錦堂；孫晴峯
4 f 娛樂愛好	繞口令－八尺八寸八分八釐嘩嘩呢 朱介凡輯		少年遊－大漠漢的桃花源 張佩玉 漫畫教室－漫畫的認識與表現 劉宗銘
5 生活	生活常識－捉泥鰍 向壹	生活常識－戰地守護神 杜白	
6 a 文學	我們來寫詩－如何活潑詩意 蕭蕭 新詩創作－問 孫晴峯 散文－大掛鏡 張光譽 少年書房－貝多芬傳 沈錦堂 寓言－懶人國 郁斐斐 趣味故事－吃蚊子的月亮 桂吟歸 美的天地－夢幻詩 鄭明進	我們來寫詩－如何發揮想像 蕭蕭 新詩創作－敬愛的爸爸，有趣的爸爸 劉正盛；杜榮琛 散文－可愛的女鬼 張光譽 童話－小豬與蜘蛛 孫晴峰 趣味故事－吃蚊子的月亮 桂吟歸 小故事－懷念周舍 悅玲	鄉下的童年－牛角驚魂 林雙不 寓言－吐金虎 野火 童話－小豬與蜘蛛 孫晴峯 趣味故事－吃蚊子的月亮 桂吟歸
6 b ルポ・ドキュメント			
6 c 美術	馬戲 盧嘉成；吳隆榮解說	故事 趙子嘉；吳隆榮解說	美麗的鳥 高淑芬；吳隆榮解說
7 讀者	學生園地－青青草原 吳信耀 孫姐姐信箱 孫姐姐	父親節徵文佳作 何耕字 學生園地－青青草原 葉金燕 孫姐姐信箱 孫姐姐	父親節徵文佳作 汪穎 學生園地－青青草原 林美娥 孫姐姐信箱 孫姐姐

第60号 (70.10)	第61号 (70.11)	第62号 (70.12)
迷你格言－生活拾穗 桂文亞輯	藝術家故事－小酒保變大畫家 莊伯和	勵志－一位斷手的青年 羅枝士
集郵趣談－波音七四七郵票 王華南	集郵趣談－耶誕節郵票 王華南	集郵趣談－耶誕節郵票 王華南
戶外安全－登山與求生的真諦 馬賽 經濟漫談－建設 奮鬥 幸福 洪致	戶外安全－動物的聰明與愚笨 馬賽 健康與衛生－航空飛行的醫學 管春仁	少年書房－國中生理學 劉興郁 戶外安全－野生食譜 馬賽
時事分析－放眼看天下 楊思謙	時事分析－放眼看天下 楊思謙	時事分析－放眼看天下 楊思謙
綠色地平線－古樹神木 徐國士：心岱我們的生物世界－稻田裡盛開的紫雲英無花果 科學常識－臺灣卅年來工業發展及未來 陳建蒼 小小實驗室－水的性質 鄧聰；康蘭 植物世界－偷渡大王 鄭元春	太空時代看地球－掙脫了地球引力 馮鵬年 動物故事－小烏龜的話 草子業 生物常識－可愛的草食動物 楊平世 植物世界－雌雄異株的植物 鄭元春 小小實驗室－二氧化碳的性質 鄧聰；康蘭	科學報導－神奇的電腦 許清琦 宇宙奧秘－太陽的利用 盧世斌 動物故事－「倒著睡」和「順風耳」 鍾雲 太空時代看地球－蘋果為什麼落下來 馮鵬年 植物世界－沒有骨氣的掠食者 鄭元春 生物常識－看看我聽聽我 楊平世
文化漫談－中國文化的更新與復興 羅蘭 中國人的生活 -10- 朱惠良	民間故事－五塊銀野火 中國人的生活 -11- 朱惠良 採風攝俗 老莊	中國人的生活 -12- 朱惠良 採風攝俗 老莊
雕刻藝術－一水的「蝶溪石」硯臺 向壹 徵畫大展 張楓銘	國劇欣賞－木蘭從軍 陳亞南；張靜心	國劇欣賞－空城計 陳亞南；張靜心
漫畫－西遊記 林文義	郵票漫畫 瘦叔叔 趣味漫畫－梅寶 老瓊漫畫－西遊記 林文義	漫畫－西遊記 林文義
有獎填字遊戲 劉正盛		
小幽默－哈哈鏡 陳志銘	小幽默－哈哈鏡 林思敏	小幽默－哈哈鏡 黃貞貞
	談音說樂－再談音樂的好壞：並訪王海玲 沈錦堂；孫晴峯	
我們來寫詩－從身邊的事寫起 蕭蕭 少年遊－大自然的工程師 姚翰玲 漫畫教室－漫畫的實例 劉宗銘	我們來寫詩－選擇感動自己的題材 蕭蕭 少年遊－人間仙境 黃絨清 漫畫教室－頭部基本練習 劉宗銘	我們來寫詩－為什麼同中求異 蕭蕭 少年遊－踏著河流的足跡 李兆玲 漫畫教室－臉型的變化 劉宗銘
生活趣談－貓國春秋 丘秀芷	生活常識－農村金字塔 鄭琳枝	生活常識－一頓一瓦來之不易 鄭琳枝
童話－小豬與蜘蛛 孫晴峯	少年小說－空中島嶼 張家倫	少年小說－空中島嶼 張家倫
各行各業－大廚師 專題小組 特別報導－暑假聯誼會 國防報導－我們的鋼鐵隊伍 畢雲皓 紡織廠 謝士彥		各行各業－電子作業員 專題小組
美的天地－特別的一天 鄭明進	美的天地－保護大自然 鄭明進 上國樂課時 張立杰；吳隆榮解說	美的天地－耶誕老人在那裏 鄭明進 年夜飯 王曼麗；吳隆榮解說
學生園地－青青草原 莊家豪 孫姐姐信箱 孫姐姐	學生園地－青青草原 劉慧真 孫姐姐信箱 孫姐姐	學生園地－青青草原 楊志仁 孫姐姐信箱 孫姐姐

2 政治・社会

この時期までに一つの定型を持つのが、「放眼看天下」というコーナーである。亮軒が初めの執筆者だったこのコーナーは第8号（民國66.6）から楊思譚が一貫して筆を執ってきた。楊思譚は民國15年（1926）6月22日福建省晉江縣生まれで、延平学院を卒業した。台湾で『中央日報』『兒童世界』などの編集者を務め、作家としては中国文芸協会文芸奨章を受けたが、この時期は編集面での仕事の主である。

民國70年の構成を見ると、第1番には必ず国会、国民党の動きと蔣經國総統の言葉を絡めて纏められる。2番目以降は、レーガン大統領就任であったり、中性子爆弾であったりと様々だが、トップは党政関係の固定位置と言って良い。

例えば1月は、台湾の国民所得、消費カロリー、バイク、テレビの所有などの例を挙げて先進工業国に遜色ないとしている。そして蔣經國総統の、台湾は辛苦にあえぐ大陸の同胞にとって希望の灯台である⁽²⁾という言葉を紹介し、幸福の中にも大陸を光復するという使命を忘れないようにと結んでいる。

2月は前年の國大選挙、立法委員選挙が公正に行われ、国民党推薦候補が97%当選した⁽³⁾ことで国民党への民衆の支持が確認できたとし、蔣介石の言葉を引いている。

3月号は国軍軍事会議についてで、蔣經國の、共匪と談判せず、会談申し入れの狙いは中華民国の消滅であること、中国問題は存在するが台湾問題は存在しない⁽⁴⁾ことという言葉を引く。

(2) 「三十多年來，我們在台灣復興的三民主義建設，在先總統 蔣公的策劃和領導下，已為國家開創出光明的前途，並已成為大陸同胞在長夜漫漫的苦難中，唯一希望所寄和心嚮往之的燈塔。」

(3) 「本當提名推薦的候選人，接近全部當選；這是本當永遠和民眾在一起，民眾予本當信任和支持的明證」

「總裁的遺訓：實踐三民主義，光復大陸國土，復興民族文化，堅守民主陣容，是本黨的基本立場，也是國家的基本立場，更是謀求國家長治久安的唯一道路，我們必須結合全國同胞，戮力以赴」

4月号は「中共十悪大審已落幕」として、4人組裁判の結果を報じ、国民党の「告内外同胞書」で示されるように、共産党の悪はマルクスレーニン主義、毛沢東思想とその制度によるもので、十悪だけでなく共産党全体が罪人だという指摘を紹介する。そして蔣經國の、この内部闘争はここで終わらないので反共復國の行動を加速させよ⁽⁵⁾という言葉を引き。

5月は第12回国国民党全国代表大会で、広州の第1回大会からの歴史にも触れて、最後に統一中国を主張する。またこの号ではレーガン米大統領が反共の立場を明確化したことにも触れる。

6月は「以三民主義統一中國」として、国民党第12次全国代表大会で、蔣經國が主席として再任されたこと、建国70年代は三民主義勝利の時代で、中華文化を復興し民主政治を徹底する時期だという発言を紹介し、反共復國の一里塚となると位置づける。⁽⁶⁾

7月は「発揚 国父革命精神」として、蔣經國の呼びかけを記している。9月は蔣經國の「信頼主義真理」という軍人への講和を紹介。蔣介石の日記を紹介しながらの講演で、この号でも少年読者にいくつか引用ししっかり記憶するようにのべている。この月は2番目に中共党内人事について。胡主席、葉劍英ら6人の副主席（うち鄧小平は軍事委員会主席兼務）、華国鋒前主席が末席の副主席に降格された一方、趙紫陽がNO4まで抜擢された人事である。これが

-
- (4) 「蔣總統說：中華民國政府絕對不和共匪談判、是我們的基本立場、是我們永不改變的決策。……蔣總統說：我們除了絕對不和共匪談判以外、對所謂中國問題或台灣問題的解決、也有我們的基本立場。首先我們要說明的、就是今天只有中國問題、沒有所謂台灣問題；而中國問題的真正解決、實際上是怎樣取消大陸上的共產專政和共產暴政問題。」
- (5) 「中國國民黨在這項『審判』公布以後、發表了告海內外同胞書、指出共匪的一切罪惡、都來自邪惡的馬列共產主義・毛澤東思想以及它的制度。整個共產黨都是中國的罪人、所以該受審的、不只是江青等「十惡」、而應該包括已死和未死的全部匪奠、以及邪惡的共產思想制度。……中國國民黨蔣主席也指出：共匪三十一年來、在大陸的暴政、使無數同胞被迫害・被殘殺、這種殘民已逞的暴政、實為前所未有的酷烈、但是共匪的內部鬥爭、也將一日比一日強烈、並不會因為它審判「林江集團」而中止；而對於大陸同胞的統治迫害、也必將更加酷烈、希望全黨同志注視它的發展、而加速反共復國的行動」
- (6) 「這次全會的主題、在於肯定建國七十年代是三民主義勝利的年代、是以仁除暴的・重光大陸的年代。…總之、未來的歷史將證明、第十二次全國代表大會、是中國國民黨革命史上十分重要的一次大會、是反共復國大業邁向勝利成功的新里程碑」

一種の妥協の産物で、なお反鄧小平勢力は少なくないという大陸問題専門家の分析も加え、最後は統一中国を訴える。⁽⁷⁾

10月には閲兵式で、蒋介石遺訓を引きながら、賢明な政府の下、アジアの人々の灯台になるよう使命を尽くせと言う。⁽⁸⁾

11月は台湾省省議員第7回選挙、縣市長第9回選挙、台北市議員第4回、高雄市議員第1回選挙といった地方選挙への蔣經國発言を引く。ここで国民党候補だけでは定員に満たず、各界から積極的に出馬するよう呼びかけている。

ちなみにこの時点の有権者は一千万を超えた。国民党は19の縣市長のうち15を、台湾省議会では77議席のうち60議席、台北市議会は51議席中38議席、高雄は42議席中32議席を獲得した。

12月は和平談判について、蔣經國の光復中国の堅持発言を紹介、その上で蔣經國が引用した蒋介石日記の三つの部分を紹介している。⁽⁹⁾

これらが、当時の中学生に関心を持たれたとも、また十分に内容が理解されたとも思えないが、発行人以下編集者の拠って立つ立場からも、何より伝えなければならないことがらであった。

政治的には、「三民主義」「光復祖国」「統一中国」といった決まり文句がちりばめられているが、この年葉劍英が9項目の台湾政策を示したこともあって、そもそも政府ではこれに関係した動きが多かったのである。

1月12日の軍事会議で蔣經國総統によって「絶不與中共不談判是中華民國永不改變的政策」と宣言され、3月に台湾省主席の林洋港が訪日し蔣經國総統の宣言と同様のことを東京で発言した。更に10月7日の常務委員会でも三民主義統一のため国を挙げて務めると宣言があった。

(7) 「實際上、中共的頭目無論怎樣搬位字、他們罔顧倫理人性、壓迫同胞的荒謬政策永遠不會改變；我們要統一中國、拯救苦難的同胞、唯有貫徹實行三民主義、才能建立一個富強的國家」

(8) 「蔣公「莊敬自強、處變不驚」的遺訓、在賢明政府領導下、努力不懈、不但不受險惡環境的影響、反而創下史無前例的局面、成為亞洲民族的燈塔、也是大陸同胞重過和平安樂生活的希望所寄；所以慶祝國慶、我們應該加緊完成我們的使命。」

(9) 「我們堅持光復大陸、解放同胞的信心和決心、永遠不會和大陸同胞的血仇死敵共匪「談判」」

3月29日から圓山大飯店で開催された国民党の第12回全国代表大会で、蔣經國總統は中華民國の70年代は三民主義の勝利と大陸光復の時代と位置付ける。4月2日に行われた選挙で蔣經國總統が主席に再選され、5日に「貫徹以三民主義統一全國案」などが可決される。

9月30日中国の葉劍英常務委員会委員長が平和的統一のための9点を発表した。宋楚瑜新聞局長が基本的に宣伝にすぎないとこれを批判した。

11月21日には三民主義統一検討会が開かれ、『三民主義中国統一大同盟』が設立され、11月25日の政府人事で、邱創煥を行政院副院長、宋長志を国防部長、郝柏村を参謀総長、林洋港を内政部長、李登輝を台湾省主席とする体制が作られた。

この間の「変奏曲」として、5月29日に宋慶齡が死去、上海で6月4日に予定されている葬儀参列の誘いが宋美齡、蔣經國總統、蔣緯國に送られた。

また、蔣介石前總統の名前もまだよく登場するが、これは中正紀念堂が前年に落成したところでもあり、まだまだ話題として彼の名前が消えない時期であったためであろう。

5年前も、反共といった政治的議題は、当然よくこのコーナーに登場したが、この民國70年の書き方は、第一項目にほとんど例外なく蔣經國總統の言葉を引用していることを特色としている。

このコーナー以外に関連記事を拾うなら、外貨保有高が74億\$であると中央銀行が公表したのが民國70年(1981)1月であった。6月に経済計画發展委員会は民國71年(1982)以降4年間の経済成長率を8%アップとする計画を発表。増強される国力を印象付けるために、10月号に陳建蒼の「台湾卅年來工業發展及未來」、洪致の「建設・奮斗・幸福-台湾卅年經濟進歩」が洪致の手でまとめられている。

また、徴兵制を取る台湾では、兵役前の年代である彼らに、軍事面での格好のいい状態を示すため、また一部の男子たちの嗜好にも応えるべく、軍用機の記事も書かれた。

5、6月号ではスイス空軍の戦闘機を紹介。8月は6月にパリで行われた国

際航空ショーで出展された軍用機。10月は台湾の三軍紹介で、台湾海峡の防衛と大陸反攻の不可欠の存在として描く。こうした国防関係の記事は畢雲皓が担当した。8月に中華民国空軍のパイロット操縦の飛行機が大陸で墜落する事件が起こっているが、それは記載されていない。

3 読者との互動關係

『幼獅少年』の出版部門全体が、創作・編集面で才能発掘、作品紹介、さらには発表の場の提供を目指していた。『幼獅少年』編集部が読者の反応を知るために利用したルートは以下の3種類にまとめることができる。

3.1 讀者函

第一は読者が本誌に感想を投稿する「讀者函」のコーナーで、この時期は一貫して雑誌の目次ページの次に置かれている。

読者たちの言葉から、少なくとも本誌が非常に歓迎された様子は、まず見てとれる。

次に気付かされるのは、読者層が縦横に広がっていること。縦方向は、ターゲットである中学生の一部が、卒業後もそのまま読者として残存したらしいこと、小学生も読者であり、事実目次面には毎号小学生の絵画がコメント付きで紹介もされていた。

創刊時の中学1年生は、この年には高中もしくは高職の2年生である。それでも読者として残ったのは、何といても次のレベルにある『幼獅』月刊は著しく政治色が強く、誌面の多様性という点で本誌より魅力的とはとても言えないからである。

また、高校にあっても、『幼獅少年』の記事は授業内容との関連性が見えたらしい⁽¹⁰⁾。

(10) 「上了高中後貴刊更成為我的優良讀物兼參考書。因為高中課程中，尤以地理，生物為然，很多自然景觀全市吾人所無法親身體驗而理解的，但經由貴刊圖文並茂的詳載，很多難題我都一一克服樂。『幼獅少年』真是我學業上一大功臣呀！」

一方横方向では、香港やビルマからの投稿が見える。本地台湾のみならず、海外の台湾もしくは中華民国派の中国人においても、一定の読者層が形成された。7月はビルマ在住の華僑の投稿があり、多くの中国人がいるが中国語の本がないのが憾みで、簡単な図書室を作ったらこの雑誌は毎日何度も借り出されるとしている。

どういった記事が歓迎されたかを、この欄への投書で見ると、中学生としては無理のないことであるが、雑誌の中でも好んで読まれるのは、投稿欄や漫画、音楽といったところで、特に漫画については、かなり強い反応が見える。この時期連載されていたのは、林文義の「西遊記」で、今日から見ると連環画の世界を脱していないように見えるが、それでも雑誌の中では人気コーナーだった。

良い漫画は成長に役立つ（5台北）⁽¹¹⁾、科学漫画のような学習的色彩もある漫画を望む（5台中）、漫画専門欄の要求（5板橋）、本誌で最初に見るのが漫画である（6高雄）、漫画の記事を（12）、また「哈哈鏡」の陳朝寶の絵も「漫画」として記されている（11台中）。連載の「西遊記」は単行本化を望む声（11彰化）も。一方保護者の否定的な見方もうかがえる（5台北）⁽¹²⁾。

さらに漫画を読むだけでなく描いてみたいという声もあったようで、こうした反応に編集部は9月以降劉宗銘の漫画教室連載予定と8月に告知し、実際に連載が開始された。

おそらくこうした娯楽レベルの読者が過半を占めていたと思われるが、一方で文芸面も確かに利用されてはいる。7月の投書（台北）には、小学校時代の創作を回顧、小学校で1、2の物語を書き、児童詩を『月光光』に投稿し5年で最高栄誉賞をもらった。今日は学校の開校記念で、これを題材に投稿しようとして記されている。これは編集側にとっては狙い通りのものであろう。

2月号では、小学5年生が、作文の助けになると書いており、学習の助けと⁽¹³⁾

(11) 数字は掲載月、地名は投稿者住所

(12) 「雖然現在漫畫仍然在家長的心目中得不到好印象、但卻深受兒童們的歡迎、好的漫畫、能使國家未來的主人翁身心健全；壞的漫畫、能使他們身心受害、尤其現在不好的漫畫充斥市面、更應為兒童們選擇好的漫畫。」

の意見も多い。⁽¹⁴⁾

記事については、軍事面の記事もそれなりの固定の人気があり、ほかに中学の教科書と関連した読み物が良い（11 雲林）、古代名人の言葉や西洋の哲学を加え、また著者紹介を加えるとよい（1 彰化）という意見も見える。

自分たちの作品が掲載される「青青草原」も人気があったが、読んで面白いのはショートコント的な「哈哈鏡」のようだ。

3.2 青青草原（作品投稿）

少年の創作者にとって読者作品の投稿欄である「青青草原」が主たる舞台であった。文章以外に絵画、書も対象であり、通常特にテーマは設定されないが、時には、あるテーマで投稿を呼びかけることもあった。

例えば鄭明進は「美的天地」として、30年前自分が建国中学の学生だったとき、六張犁から1時間以上歩いて登校した。バスも使わず道行く車も少ないし、飛行機の音もほとんどない。いまはラッシュのバスや自転車で登校し、街へはバスかタクシーを使うし、あふれる自動車は排気ガスをまき散らす、かつて外国人の友人を見つけるのは難しかったが、今は欧米などの外国人を見かける。世界の少年たちは地球環境をどう見るかを紹介し、台湾の君たちが考えることを「青青草原」に投稿してほしいと呼びかける。

あるいは7月号で、夢についての世界の少年作品を並べ、これも青青草原への投稿を呼びかける。こうした際に紹介される作品は比較的幅広く、スペイン、ルーマニア、英国、ジャマイカの少年たちの文章や絵も掲載されている。

「青青天地」の投稿者を見ると、台湾各地に散らばるほか、カリフォルニアの旅米学生も投稿している。

他に作品募集をしているものとして、人気の「哈哈鏡」があり、これは謝礼が掲載誌と60元だが、短いものなので、盗作しないように注意がある。

(13) 「…我最喜歡「幼獅少年」、因為看「『幼獅少年』」能使我的作文大有進步、…」

(14) 「而每期總是會有幾篇與國中課本有密切關連的文章或報道、例如：52期的「馬鈴薯」：57期的「紅樹林」和「大自然請客」都是生物科本的延伸、這種文章都能補上課本的不足、對我們有很大的幫助、…」

3.3 徴文・問巻

第3のルートは編集部の徴文企画やアンケート調査である。

テーマ性の募集は、例えば1月号の「母親節送什麼禮物給媽媽」200字以内、1月末締切、5月号で掲載、四月号の「爸爸最可愛的時候」で、200字以内、5月末締切、氏名住所学校明記で掲載本1冊と稿料。8、9月号掲載になる。

徴文作品の発表スペースは大きく、母親節の佳作は林順雄の絵をバックに、6ページにわたり一段組で配置された（この時期本文の多くは2、3段組だった）。またこのテーマでは小学生の投稿も含まれる。

挿絵を描いた林順雄は民國37年（1948）屏東生まれの水彩画家である。民國61年（1972）復興崗学院芸術系を卒業、民國64、65年（1975、76）に国軍文芸金像獎を受けており、作品を投稿する少年たちにとって、こうした評価の高い画家の挿絵が付くのは魅力があったはずである。因みに彼は翌民國71年（1982）には中国文芸協会文芸獎章を受けている。

11月には「生活拾穗」の投稿を求め、また12月の徴文は「我家的狗狗」であった。

絵画の募集もあり、6月号には、学校・学校生活をテーマにしたもので、水彩、油絵、クレヨン、版画いずれも可、学校及びクラス名氏名を明記が指示され、7月締切、掲載誌と賞金付。これは10月号に「畫」生筆妙」として特集で紹介されている。

アンケートも実施されている。12月は「國中生「電視」專題意見調查票」で、中学生のテレビへの意見、通常の視聴形態、テレビへの提案を調査し、結果は後の記事に反映される。

3.4 学校との連繫

第4のルートは、学校との関係で記事を作成するものである。

「吾愛故郷」シリーズは、自分たちの街を中学生たちがまとめる企画である。

2月は黄朝宗教諭の指導で「我家住斗六」、5月は花蓮縣の新城を、花蓮秀林國中三年忠班の学生が地理の任增順教諭の指導でまとめたもの、比較的大き

な写真を数葉配した構成である。6月は台東の東海國中の生徒が黃贊烈教諭の指導で「我家住台東」をまとめている。

7月号では、中学の交流を促すため、社団、特別版、球隊、田徑隊などで、「歴史があり、成果(全省一位、海外訪問)、特色があるものを知らせてほしい、そうした企画があると広報している、

3.5 交流行事

第5のルートは、直接編集者と読者の接触を図るもので、これは救国団得意の分野である。この年は8月に「幼獅少年讀者作者編者暑假聯誼會」が企画された。その写真入り報告が10月号に掲載されている。

聯誼會は8月7日「青苑」で開催された。

最初に幼獅会社の周幸総經理が歓迎挨拶、瘴弦編集長が來賓を紹介、期刊發行組の洪招桂組長が雑誌への意見を求める。

その後参加者の自己紹介の後、創刊号の作家のひとりでベテランの外省作家である琦君が、写作經驗を話し、馬賽が植物の話や、蛇を捕まえたり吹き矢のデモンストレーション、楊平世が昆虫標本の作り方、鄭元春がスライドで植物撮影のコツを、林文義は西遊記を描く心得を話した。この会には陳亞南、陳月琴、張幼珠など教職の人間も参加し、漫画家林文義のサイン会も行われた。

聯誼會に参加した少年(10台北讀者函)は、本誌で中国の文化や歴史を紹介して少年層に国家理解と愛国意識を持たせること、郷土への認識を強めること、たとえば「吾愛故郷」シリーズは作者にとっては郷土に愛着を持たせ、他の読者には我が国が愛すべき場所を有していることを認識させるという意味で続けるべきだ、青青草原は拡大をといった提言がある⁽¹⁵⁾。別の参加者は青青天地の拡大、「放眼看天下」はニュースが平板で新聞と変わらないので「時事評論」

(15) 「1 現在的少年多半不怎麼了解自己的使命與責任、我建議“幼獅少年”中介紹我國的文化和歷史、使我們少年朋友了解自己的國家、並且愛國家、使我們這一代更朝氣蓬勃。2 認識自己的土地是很重要的、像在五十五、五十六期的“幼獅少年”中的“我愛故郷”專欄、將新城村和台東市介紹的很詳盡、對作者本身來說、一定愛這塊土地；對住在外縣市的朋友來說、更認為我們的國家是很可愛的。…」

として評論文にすれば国家に関心がある少年は歓迎する、表紙はより美しく、児童画欄を配し、そうした場所を商業広告に渡さないよう、などの提案がされている。

これとは別件であるが、救国団活動に参加した人たちは、保護者としてこの雑誌を子女のため購入したのであろう。4月号に救国団の資料を求める総団部秘書室の1月30日付の広告がある。これによれば、団史館の設置にともない、先輩、軍訓、ボランティアなどのスタッフに、資料や旗、記念品、賞状などの提供を呼びかけ、提供者の名前を伏して永久に展示するとしており、救国団に関わったことのある保護者に向けたメッセージ機能も利用された。

4 執筆陣と作品

4.1 執筆者たち

この期間の執筆者のうち、基本的に作品目録が作成されるような一定以上の評価がある文芸創作者はほぼ次の通りである。

第2次大戦終戦前に大陸で生まれたのは

羅蘭 本名靳佩芬 女性 民國8年(1919)6月3日河北省寧河縣生まれ。

羊令野 黄仲琮 筆名必也正, 田黎, 予里, 民國12年(1923)1月20日安徽省生まれ。

楊思譚 民國15年(1926)6月22日福建省晉江縣生まれ。

大戦後、台湾で生まれたのは

林雙不 本名黄燕德, 民國39年(1950)台湾雲林縣生まれ。

廖玉蕙 筆名唐笙, 柳映堤, 女性, 民國39年(1950)4月14日台中生まれ。

陳亞南 筆名陳依, 民國39年(1950)籍貫は安徽省臨泉縣, 台湾彰化生まれ。

王裕仁 筆名展甦 民國44年(1955)台湾宜蘭生まれ。

孫晴峰 民國48年(1959)1月生まれ。

である。この二つの層は、前者が言わば模範的中文作家であり、後者は戦後の中国語教育の成果として文芸活動の第一線に出ようとする最初の集団である。

編集部が文芸作品を書かせているのは、小説では王裕仁（顔色不見了）、廖玉蕙（李衛公靖）、徐進夫訳のもの、童話が孫晴峯（鄭清文）、蘇樺、張家綸、隨筆が林雙不、散文が曾美恵、子敏、張光誉、詩が洪志明、劉正盛といった人々である。

小説「顔色不見了」を書いた王裕仁は筆名を苦苓また展甦といい、民國44年（1955）台湾宜蘭に生まれた。父は熱河省出身の満州族。本人は台湾大学中文系を卒業後明道中学で教職にあったが、その後テレビ業界に転じ自身の名前がタイトルに入るいくつもの番組を持った。近年は雪霸国家公園の生態解説の仕事に就いたりしている。文学者として中国時報散文獎、聯合報小説獎、中外文学現代詩獎、吳濁流文学獎小説獎佳作など評価も高い。この時期はまだ大学在学中であったが、投稿した文章で既に注目されていた。また展甦の名前の方でも1月号に書評を書いている。

廖玉蕙は筆名を唐笙あるいは柳映堤と言い、画家の蔡全茂夫人でもある。台湾の語文の教科書ではおなじみの女流作家で、民國39年（1950）4月台中に生まれた。東呉大学中文系および大学院卒業。在学中からインタビュー記者として活動し、『幼獅文芸』の編集部でも働いた。その後は母校の助手を振り出しに、国立台北教育大学語文與創作学系教授、同大学台湾文化研究所教授として古典文学、現代小説などを講義した。創作面では多数の散文、小説を発表して中山文学獎、中興文学獎などを受けた。

童話「小豬與蜘蛛」を連載した孫晴峰は籍貫は江蘇省だが、本人は民國48年（1959）1月台湾で生まれ、台湾大学森林系卒。この作品は在学中の作である。同時に彼女はこの年の『幼獅少年』で、フォーク歌手のインタビュー記事も一貫して担当している。卒業後は聯合報グループの民生報記者、児童版編集者として働くかわら、自身も童話創作に取り組み、民國75年（1986）には中国時報の児童文学獎を受賞した。若くして第一線にあり、後ニューヨーク大学で教職に就く。彼女の童話は現在も多数が販売されている。

「山地故事」を連載する蘇樺は今日まで大量の作品が出版されているが、それは『求愛格格』『深宮幽情』などほぼ男女関係のライトノベルというべきも

のである。むしろこのシリーズでは、太い線で大胆なタッチの挿絵を描いた洪義男の方がビックネームであろう。

自身の郷里を小説風にまとめた連作は林雙不の「郷下の童年」である。

林雙不（黄林雙不）は本名を黄燕徳といい、民國39年（1950）10月に台湾雲林縣に生まれた。小学校時代から投稿を始め、虎尾初中の学生だった時期には碧竹というペンネームを持っていた。経済的に豊かでなかった彼はこれで原稿料を稼いでいた。作品が書かれた民國70年（1981）秋には輔仁大学哲学系に入学、在学中に『山中歸路』（大江）などの散文集が刊行された。

彼は兵役後は員林高中、のちには中興大学で教鞭を執る。林不雙というペンネームは前年民國69年（1980）の高雄（美麗島）事件を契機に変えたもので、以後は政治社会運動に関与。中國文芸獎章散文獎（1982）、吳濁流文学獎小説獎佳作（1985）に選ばれた。民國83年（1994）には一旦教職を離れて農業生活に入ったが、民進党政権になった民國89年（2000）屏東縣政府新聞室、教育局、など地方政府勤務、のち同縣滿州國中の校長を民國95年（2006）まで務めた。

連載の「我家有個子女巫女」を書いた陳佩周は1990年代にかけ数多くの書物を上梓しているものの、文学作品ではなく知識読み物という系統のものがほとんどである。たとえば『台灣山岳傳奇』（民國93, 2004, 民生報）、『台灣禽獸列傳』（民國83, 1994, 聯經）、『馬雅探險手記』（民國85, 1996, 民生報）、『變臉中的印地安人』（民國88, 1999, 麥田）、『空軍中隊的故事』（民國85, 1996, 聯經）などである。

「故郷故事」というシリーズは前年から連載が始まり、作者を変え、時に掲載されない号を挟みながらもある程度続いた。この年は5号に安徽省の物語が示される。羊令野の「涇縣有三寶」である。

羊令野は民國83年（1994）10月4日に没しているが、本名を黄仲琮と言い、民國12年（1923）1月20日安徽省に生まれた。必也正、田犁、予里などいくつものペンネームを持つベテランである。大陸で政治作戦学校研究班を卒業、国民党中央学校に入学して軍の文芸工作担当として数種の雑誌・新聞の編集に

携わる。民國 39 年（1950）に国民党軍と台湾に移り、『前進報』を編集、民國 45 年（1956）『商工日報』に「南北笛」、翌民國 46 年（1957）に『青年戦士報』に「詩隊伍」という詩欄を作り、また「現代詩」の社長にもなる。やがて国防部に移り、軍の詩歌隊初代隊長として『詩隊伍』を創刊した。およそ 30 年以上軍事畑で活動した文学者、詩人であった。『幼獅少年』では、前年に「中正紀念堂之歌」が掲載されている。この文の挿絵は王愷で、民國 28 年（1939）生まれ。彼は国家十大建設をテーマにした油絵で知られているが、ここでは切り絵風の線で描かれた挿絵である。ちなみに彼は詩人としての成果も小さくない。

片手を失った少年を描いた羅枝土は、羅雅溪というペンネームを持つ。台湾桃園出身で、新竹師範学院卒。教員をしながら創作活動に取り組み青年奨章、中国語語文奨章、教育部児童文学奨などを受賞。多数が出版されている。

少年小説「愚人的天堂」(We Are But A Moment's Sunlight: Understanding Death, 1976) は徐進夫の訳。

徐進夫も既に亡くなったが、著名な翻訳家で、もともとは軍医だったが退役後文学方面に興味を有し、特に西洋の人文科学を学習する上で不可欠の書物を多く翻訳した。ヘルマン・ヘッセやオスカー・ワイルドの作品を台湾に紹介したほか、幼獅文化事業公司からは『文学欣賞與批評』『禪與英国文学』を出版した。創刊以来この年まで、『幼獅少年』では 3 編の翻訳を担当した。

一方記事を書いている者には編集者の他文芸活動をしていた人が含まれる。

この年三つの記事を書く劉正盛は、これまでも『幼獅少年』に幾つもの記事を発表している。彼は湖東國小での文学指導、国語作文指導で知られ、教歴は 26 年、退職後もボランティアで各校に指導に回り、夏休みには児童創作キャンプを企画して指導をした。

陳亞南はこの年「國劇欣賞」シリーズで中国古典劇に関する解説を書いたが、彼女は筆名を陳依といい、籍貫は安徽省臨泉縣、民國 39 年（1950）台湾彰化生まれである。師範大学教育系卒で、中学校の国語教師をしながら、創作・編集でも活躍した。この連載も教員をしながらのものである。洪建全児童文学首奨、省新聞処優良著作奨、教育部散文創作奨を受けた。

音楽記事を書いた沈錦堂は、民國29年(1940)3月、台湾新竹縣の生まれ。国立芸専で作曲を学び民國57年(1968)卒業すると台北市立交響樂團、その後台湾省立交響樂團で、パーカッション奏者をしながら運営にも参加。作曲も数多く、民國63年(1974)には教育庁愛国芸術歌曲創作獎を受賞。民國66年(1977)オーストリアのヴィーンでアルフレッド・ウールに師事、帰国後は東海大学、国立芸専などで教え、民國71年(1982)芸専で作曲のポストを得るが、さらにニューヨーク大学ブルックリン校で音楽修士。声楽、合唱分野で特に創作が多く、中正文化中心の委嘱品としてオペラ「魚腸劍」を作曲した。

連載記事「美的天地」を書いた鄭明進は、民國43年(1932)台北生まれ、台北師範学校芸術科を卒業し、小学校での美術教育に尽力した。民國66年(1977)西門國小を最後に定年退職、『漢聲』雑誌で本土作家と画家による絵本出版が企画されると、絵本について教授し、やがて同社の『漢声精選世界最佳兒童图画書』の編集にも携わった。この時期は既に教職を退いたあとの仕事である。彼の台湾の絵本出版に対する功績は多大で、多くの兒童書の挿絵を描いた。

一方美術関係を見てみると、まず「山地故事」の挿絵を付けた洪義男である。彼は民國33年(1944)台北生まれ。三重國小の時代すでに全省の兒童画コンクール佳作に選ばれる。家計の事情で中学を1年で辞め、印刷工場を経て寶石出版社に職を得る。ここは『學童』半月刊の出版社でもあり、また漫画単行本も扱っていた。民國49年(1960)『新少年』に「月光女俠」を發表後、『模範少年』『漫画週刊』にも作品を發表、民國55年(1966)には『時報週刊』『光華』そしてこの『幼獅少年』に作品を發表、最後まで現役だったが民國100年(2011)肝臓癌で死去した。『幼獅少年』で原住民故事の挿絵を依頼されると実地取材に出かけたという。

劉正盛の詩に絵をつけた徐秀美は家菊のペンネームを持つ漫画家で、民國55年(1966)には『模範少年』に陳海虹ばりの漫画を發表した。1970年代には新聞、雑誌などで幅広く活動、中国時報や聯合報、自由時報など有力紙や『皇冠』『遠景』そしてもちろん『幼獅』もその活躍の場だった。民國63年(1974)

以降は挿絵画家、設計士として活躍した。既に画家として自立した後の仕事である。

王愷は民國 28 年 (1939) は国家十大建設をテーマにした油絵で知られているが、同時に詩人としての成果も小さくない。

「哈哈鏡」の挿絵は陳朝寶が担当した。陳朝寶は民國 37 年 (1948) 9 月台湾彰化縣生まれ。高校 2 年で、縣の文芸コンクール美術部門に入賞、民國 61 年 (1972) 『皇冠』に作品が掲載され、以後多くの雑誌にも採用される。民國 65 年 (1976) に『聯合報』の特約時事漫画家として契約、既に十分な業績のある人であった。以後時事漫画家として世界的に活動すると同時に、詩作も行う。80 年代にはパリに居を移した。

このように、文章だけでなく美術面でもそれなりの陣容を擁していた。

4.2 文芸作品

この時期の連載で特徴的なのは、「山地故事」である。蘇樺の文章に、既に名を成していた洪義男の挿絵を配した構成で、原住民の物語を連載した。これは民國 68 年 (1979) 「第一顆山芭蕉」を第 1 回として始まった。民國 70 年 (1981) まで 20 編が発表されている。この年 9 月卓社大山を扱った「取回火種の鳥」でこのシリーズは終了する。台湾中華民國の枠に原住民を組み入れようとする狙いであろう。

林雙不の「鄉下的童年」は彼自身の経験を伝えたもので、劉志華が挿絵を描いている。3 月は「故郷素描」として 30 年前、すなわち彼が生まれたころの台湾西部雲林縣の東勢という名もない村の話。5 月号は「友伴」で、当時の小学校時代の友人を記述。6 月は「左膝大疤」は燃料用に西部の農家でサトウキビの葉で、その運搬中トラックの荷台から落ち 9 歳の夏休みを棒に振った話、9 月の「牛角驚魂」は作者 9 歳の 60 年代中期、牛に突かれた話である。すでに「郷土」は大陸から台湾に移っていることを暗示している。

詩については蕭々による連載「詩的語言」があり、読者函 (11 彰化) に、詩作に応用できたという感謝が寄せられる。

また、詩は1ページの絵付きで、劉正盛、絵は徐秀美（5）のものが配されている。

7月の郁斐斐（劉宗銘画）の「懶人國」は飛行船が着陸した土地の話。

8月は杜白の「戦地守護神」という軍犬の話。9月は野火の「吐金虎」。

11、12月は「空中島嶼」で張家綸が改写、蒙傑の絵によるSFで、16歳ルイの宇宙旅行の時の物語である。

この時期としては少し目を引くのが、羊令野の「涇縣有三寶」で、実はこの作品のみ全文注音である。前述のように「故郷故事」というシリーズの一作で5号に安徽省の物語が示されている。これを注音符号付の專欄とするのは海外在住者のためであるとしている⁽¹⁶⁾。

この年の漫画は「西遊記」で、林文義の編集と絵になるものであった。

4.3 記 事

この時期フォークソングが歓迎されていたのを受け、フォークソング歌手のインタビュー記事を含んだ連載が行われた。

構成は音楽の一般的な知識（たとえば記譜法など）の解説とインタビューである。解説部分の担当は沈錦堂である。彼は記者ではなく、既に実績のある音楽家である。

沈錦堂については4.1ですでに触れた。

一方各歌手のインタビューをまとめたのは孫晴峯。彼女についても既に、彼女が連載する童話のところで触れた。

他に劉三豪が民俗民芸として毎号写真入り記事を書いている。ここで扱われているのは剪黏廟會⁽¹⁷⁾、枕下玄機など、台湾本土のものが題材として選ばれている。

また中学卒業後就業する者も多かったため、職業についている若者の取材記

(16) 「『故郷故事』這個富有注音符號的專欄、是特別為旅居海外少年讀者設計的、希望您會喜愛這些奇妙有趣的小故事。」

(17) 色ガラスや陶片を骨格の上に貼って廟の彫刻などにしたもの

事もあり、たとえば4月号では美容師が、10月号では調理師が、12月は電子部品工場従業員が扱われている。

また、取材記事としては、6月は環境汚染の特集で、無花果の「小河不要死」、周成功の「注意環境裏的鉛」、曾惠中の「談水汚染」、邱炎浚の「與汚染防治有關的法令」、杏蓮溪の「白鯨精神」は高雄縣岡山の白鯨野球チームの取材記事。12月は「電子作業員」で、電子機器製作会社での労働、インタビューは中卒の女子工具数名に行っている。

杏蓮溪の「白鯨精神」は高雄縣岡山の白鯨野球チームの取材記事、9月は陳亜南・張静心の「拾玉鐺」という京劇の解説で、記事に関心があれば、休日に國郡文芸中心へ行き鑑賞するように勧めている。

他にはロジック漫談を林正弘が連載した。

5 中国強調路線と記事の鈍化

中国人と意識させて台湾の青少年を育てる、これは国民党政権の教育姿勢の基本であり、当然創刊期の『幼獅少年』でも、それを目的としたものが掲載された。

この路線のものとしては、10月に羅蘭による「中國文化的更新與復興」という長い評論文が掲載されている。曰く、

かつて五四運動で全面的西洋化（全盤西化）という恐るべきスローガンが叫ばれ、文言文、古書が捨てられたが、そうした古書に含まれた文化遺産も否定された。教育制度も教科書も価値基準も変わった。「人之初、性本善」は「狗、大狗、小狗」という語文に変わり絵画もクレヨン水彩油絵に変わり、伝統的楽器や歌に代わって「功課完畢太陽西」がうたわれ工尺譜は五線譜になった。太極拳や八段錦は「一、一、一二一！」という体操やバレーバスケットに変わった。

語文教材から四書五経は消え、「蓋上幾張油紙」といった新詩が授業で、また課外読み物も変わった。

對聯は時代遅れ、年越しは守旧、端午の節句や中秋節は「俗節」であり、民

國 20 年代にはクリスマスカードの風習が広がる。学校は春節に家に帰ると試験が受験できないように学年暦を作った。

その後の見直しがあって、伝統文化を正視する、という姿勢が見られるようになった。70 年代の中国音楽を聴くなら、西洋の技巧を取り入れジャンルは拡大して、中国の精神をさらに訴える。ピアノにもオーケストラにも中国があり、伝統の國樂もより発展する。バレエで人々は日本のバレエ団を褒めながら「うまいが、雲門に及ばない。雲門には自分の國の特色があるから」、ファッションも食事も西洋に勝る。茶はコーヒーより利点が多い、中国哲学は西洋思想の迷いを解放する。西洋の科学を学び我々は活力を増し、中国固有の歴史ある文化遺産を更新していく、とし、最後に世界にとっても中国文化の更新と復興は祝うべき収穫だと結んでいる⁽¹⁸⁾。

羅蘭は本名靳佩芬という女流作家で、民國 8 年 (1919) 6 月 3 日河北省寧河縣生まれ。河北省の第一女子師範を卒業して大陸で音楽の教員となるが、民國 37 年 (1948) 台湾に移り、ラジオの音楽系トーク番組の司会を担当、その内容は、民國 63 年 (1994) 以降数回にわたり『羅蘭小語』(文化圖書)としてまとめて出版された。高校・大学など青年層に羅蘭阿姨として絶大な人気を誇った彼女は、その他散文、小説なども多数出版し活躍した。中山文芸獎、国家文芸獎、世界華文作家協會終身成就獎などを受けている。

その一方で中国を理解させるものは、この期について見ると、かなり薄まっている。確かに本来台湾の劇ではない京劇や越劇について、「國劇欣賞」という陳亞南による紹介記事が連載されてはいるけれども。

また、6 月号では、歌手の黃大城のインタビューのタイトルとして、自分は中国的という言い回しを選んでいる。

この系列でもう一つ触れておきたいのは、「吾住台東」という中学生の作成した記事に関してである。台東というのは原住民比率の高い地域であるが、その紹介として、原住民はフィリピンからの土人と見られているが淵源は大陸だ

(18) 「建國七十年來，我們這段過程清晰可見，這成就，已經不僅是中國人的光榮，而且對全世界人類來說，中國文化的更新與復興，也是一項值得慶祝得大收穫。」

としていることである。⁽¹⁹⁾その説明によれば、泰雅は越の子孫春秋時代以前に浙南・閩北から台湾に入り、西部から山を越えて東部山地に移住、布農は百越の子孫で閩越辺境から海を渡って台湾の諸羅に至り、そこから山越えて東部山地に居住、排灣は炎帝の後裔で戦乱期に越南に南遷、バシー海峡を渡って望衛、大猫里（今の大武・太麻里）に至った。卑南も炎帝の後裔、大陸の南部からベトナム南部に行き、フィリピン北部からそこから島伝いに北上して蘭嶼・緑島に至る。阿美も炎帝系統でベトナムからバタン諸島を経由して緑島に着き、長虹橋・豊浜・長浜に入ってから東河郷・富岡周辺に居住、雅美は大陸からインドネシアにわたりその後バタン諸島沿いに蘭嶼に着いたとしている。

確かに、原住民の来源は、南方説のほか、中国大陸からの遷移説や北からの遷移説も存在したが、その言語上、文化面での特徴から、今日の教育では、基本的に南方説に依っていて、ごく一部の2族だけが、沖縄からの移動で説明しているのみである。

8月号は李牧華注の「注解三字経」を紹介し、馮鵬年による紹介文では中国文化を子女に理解してほしい親は感謝すべきとしている。

また、これは本誌記事ではないものの、本誌読者に向けた宣伝として、馬蹄鉄の書籍が示されている。曾徳（筆名馬蹄鐵）は民國31年（1942）7月15日広西省鬱林縣生まれだが、反共義士として台湾に迎えられた人物であった。宣伝文では、紅衛兵の尖兵だった著者がやがて新疆ウイグル自治区に下放され甘肅省、内蒙古を経てタイへ脱出し、苦難の中の中国人を活写したと評されている。

他は子敏が「心霊的汚染」として「山海経」の「君子國」を引き合いに道徳を説いているが、これは後11月の「讀者函」で、史記や山海経のような本の面白い話を求める例として、読者から取り上げられる。

このように、中国大陸の文化に関するものは処々に見られるが、羅蘭の評論が際立って見えるほど、他の部分は大陸と台湾が混在している。

(19) 「一般人大都認為台灣山胞是來自南洋如菲律賓・馬來西亞等地的土人，其實他們淵源於大陸。就台東山胞而言，共有泰雅・布農・排灣・卑南・阿美・雅美六大族。」

6 結 語

ここまで創刊5年目の誌面を見てきた。以上から拾える特徴は、まず、時事記事の中で蔣經國総統がかなり重点的に露出させられていることが示すように、現政府の政策指針の宣伝の度合いは高まっていることを指摘できる。それは30年目の台湾建設の成果のルポでも見て取れる。

一方、中国大陸については、その伝承文化についての記事は保持され、またそれらの保持を使命として訴える長い評論が掲載されたものの、回想的なものは減少している。例えば、この雑誌で語られる故郷は、既に台湾に移っている。

また、学生を含めた若い作家の比率が増し、大陸で教育を受けた年代は当然ながら少なくなっている。読者の反応に、なお中国ものへの好評が見えているものの、それが本当の声を拾っているか、編集方針としてそうした内容を織り交ぜているかは判断の難しいところである。

このように、大陸を向いた大きな方向性と、実際には当地の作家を使い、当地の生徒に密着した実際の編集の若干の齟齬が見いだせるのが、この時期の特徴と言えるのではなからうか。

『幼獅少年』は次の民國71年から模様替えが行われる。出版法の改定にあわせ、民國71年の号から、計104ページから112ページへ8ページ増量され定価が40元に改訂される。

次に誌面に余裕ができてからの分析に進みたい。

* 本論文は科学研究補助金 (C)22520367「中華民国の文芸政策と少年雑誌の關係についての研究-『幼獅少年』の創刊と展開」の成果の一部である。